

Ⅲ. 組織基盤の強化

(1) 効果的な広報・PR 活動の実施

○機関紙 大商ニュースの発行

本会議所の活動を広報するとともに、経営に役立つ情報を会員に提供するため、機関紙「大商ニュース」を20回発行した。「たんと繁盛 大阪アクションNeXT」に関する事業等の特集し、その成果を共有した。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受ける事業者に対する支援策等をPRした。会員の事業への参画を促進するため、事業利用会員や関係者に生の声で事業の魅力を伝える方針で紙面を構成した。会員企業を紹介するため、「がんばる大商の会員さん」「初めまして！新入会員です」「会員情報プラザ」「日本一明るい企業情報」を連載した。

○Eメールを活用した広報(大商メールステーション)とホームページの充実

企業や個人の関心事項に応じて本会議所事業を効果的に案内するため、「大商メールステーション」を運営し、Eメールによる案内配信サービスを実施した。ホームページでは、本会議所が実施する多彩なセミナー・イベント、地域経済活性化のための様々な活動、新型コロナウイルス感染症に関する支援策等を掲載し、タイムリーな情報提供を行った。

[成果・実績]「大商メールステーション」の登録者数は2万4,606人、ホームページの年間総ページビューは2,215万3,270件(URL=https://www.osaka.cci.or.jp)になった。

○たんと繁盛 大阪アクションNeXTに関するシンポジウムの開催

中期計画「たんと繁盛 大阪アクションNeXT」推進の一環として、大阪・関西万博に関連するシンポジウムを2回(6、10月)、(株)日本経済新聞社と共催した。6月には、大阪パビリオンをどう大阪の成長につなげるか、10月には、「いのち輝く未来社会」における健康・医療のあり方について議論した。

[成果・実績]延べ1,072人(オンライン)が参加した。



10月、シンポジウム「未来の医療」を、2025年大阪・関西万博から

開催。手代木功本会議所副会頭が、大阪・関西から世界に発信すべき未来の健康・医療のあり方について基調講演を行った。

○大阪活カグランプリの実施

大阪のチャレンジ精神、パイオニア精神の発信・高揚を目的に、大阪の産業・地域経済に貢献した法人・団体・個人等を会頭名で表彰する「大阪活カグランプリ」を実施した。マスコミ各社からなる選考委員、本会議所役員・議員等から推薦があった40件の候補から選考委員会で9件に絞り込んだ上で、投票を行い、候補を選出。正副会頭会議にてグランプリを決定し、12月に表彰した。

[成果・実績]グランプリに「サンコーインダストリー(株)」を選出し、12月の会員大会で表彰した。



12月、大阪活カグランプリ2021に「サンコーインダストリー(株)」を選出し、表彰した。

(2) 3万会員の維持に向けた会員満足度向上運動の展開

○会員増強運動の推進

組織基盤の強化を図るため、新規加入件数2,000件を目標に会員増強運動を展開した。季節ごとに入会キャンペーンを実施し、新設企業等の非会員企業に本会議所を積極的に広報した。また、役員・議員・会員事業所から未加入企業をご紹介いただく等、会員増強に取り組んだ。

[成果・実績]紹介261件を含む新規加入件数合計は2,154件、年度末の会員数は3万252件になった。新規加入件数の内訳は法人会員1,117件、団体会員48件、個人会員739件、特別会員250件。

○会員訪問活動の実施

会員との関係構築、会員継続、及び退会防止を目的に、会員訪問活動を実施した。本会議所の活動や事業への意見を聞きとり、事業運営に反映するとともに、セミナー・イベント等の参加及びサービスの利用を促進した。

[成果・実績]事務局職員の会員訪問件数は4,238件(目標4,000件)。2003年から実施している会員訪問活動による訪問累計件数は延べ8万2,027件に達した。

(3) 組織基盤の強化に向けた交流促進

○女性会の活動

本会議所会員企業の女性経営者の資質向上と会員相互の交流を目的に、会員が講師となり自らの半生や経営者としての経験を発表する「経営事例発表会」や「勉強会」、懇親事業、中国知蜜女性創業コミュニティとのオンライン交流会等を実施した。また広報誌を年2回発行し、本会活動のPRに努めた。

[成果・実績]会員数は215人。2021年度全国商工会議所女性会連合会の表彰制度「個として光る」女性会事業で、「経営事例発表会」が最優秀賞の日本商工会議所会頭賞を受賞した。



6月、本会議所女性会2021年度通常総会を開催した。

○定例朝食懇談会の開催

本会議所役員・議員を中心に会員企業の経営者・経営幹部を対象に、早朝の時間を活用した定例朝食懇談会を開催した。

[成果・実績]企業経営、芸術、IT技術、政治経済等、幅広い分野から講師を招聘、7回(うち4回はオンライン)開催し、延べ373人が参加した。

(4) 会頭の交代

○鳥井信吾・新会頭の誕生

3月29日開催の通常議員総会において、「コロナ後の新しい時代を切り開き、大阪が未来に向けて新たに発展していくためには、新たなリーダーシップのもとで、リスタートすることが最適と考え、会頭を交代したい」との尾崎裕本会議所会頭の退任表明を受けて、満場一致で鳥井信吾本会議所副会頭が新会頭に選任された。鳥井新会頭は、就任挨拶の中で、中期計画「たんと繁盛 大阪アクション」を受け継ぐとの方針を示した上で、「ものづくり大阪の再生と、そのために若い力が活躍できる機会を提供していきたい」、さらに「未来社会の実験場であり文化・観光芸術都市大阪を大阪・関西万博に向けてつくりあげたい」と抱負を述べた。



3月、尾崎本会議所会頭は任期中最後の定例会見で、会頭としての職務を振り返った。



尾崎本会議所会頭の退任表明を受けて、鳥井信吾本会議所副会頭が新会頭に選任された。